

第5回 次世代運行管理・支援システムについての検討会 議事概要

日時：平成29年2月15日（水）10：00～12：00

場所：合同庁舎2号館 低層棟共用会議室3A

出席者：永井委員、酒井委員、安宅委員、増田委員、川端委員、永嶋委員、
山川委員、小菅委員

(1) 次世代運行管理・支援システムの検討課題に対する状況報告（資料1参照）

<主な意見>

- 基本的な方針は良いが、今後の標準化やどのようなデータを適用するべきなのかというところが、一番の課題であるため、専門家を集めてワーキンググループで検討を進めるべき。
- ハードウェアの値段はどんどん下がってきているため、運送事業者が将来を見据えて多機能のものを入れてしまった方が良いとの判断ができるよう、国の戦略が見えるようにすることが重要。
- ソフトウェアにおける標準化の部分と競争領域については、例えばプローブデータは、カーメーカーが独自に開発しているため、1回作業をしないと共有化できないということがある。このような部分は、透明性を保ったまま共有化できるという切り分けを最初の段階で行えると良い。
- 活用の仕方については、例えば体調予測で健康管理の部分で何を使うのか、保険ではどのような保険サービスを構築していくのかといったソフトウェアで競争していくことになると思うが、一度入れると変更が難しいハードウェアのスケジュールを誘導しつつ、ハードウェアに載ってくるソフトウェアのデータのある部分は協調していくということが重要。
- デジタル式運行記録計の解析ソフトは、複数の営業所において機器メーカーが異なると共通の解析ができないため、ある程度の標準化もしくはデータを変換する仕組みがあると良い。
- 次世代とは、運行3要素を見るだけではなく、リアルタイムで運行管理機器として様々な用途に使い、運転者が帰ってきたら指導教育にも使うという非常に広がりのあるものであることが重要。
- ワーキンググループの検討においては、ADAS（先進運転支援システム）や自動運転の発展の進捗を見据えた上で、進めていくべき。

(2) ビッグデータ活用による健康管理・労務管理の向上による事故防止対策の推進について (資料2参照)

<質疑応答>

- 睡眠計、血圧計や体温計をつけると値段が高くなり、実用化は困難なため、これはあくまでも研究用という観点なのかという質問があり、これに対して現時点においては予測精度の向上という研究段階であり、この中で運転者に負荷のない形で測定できる有用なものがあれば含める旨を回答。
- 実用化を念頭に入れた健康管理又は安全運転管理といったデータについて、今のままでは普段の健康管理の関係を意識したもので研究用としてはいいかもしれないが、実用化していく観点としては境がはっきりしないのではという質問があり、これに対して第1次のテストで生体情報を入れたが目的変数に対する説明力が低かったため、第2次のテストで精度を上げる努力をしている。競争領域として各メーカーがベースにのってユーザーに対して提供していく部分については関与をしない。一方で研究としては、精度を高くするための生体情報について、ベンダー等において独自の研究を行っているが、体調予報を提供していくにあたっては、生体情報を入れない形で進めている旨を回答。
- 説明変数から疲れ度合いの予測のアウトプットはどのような考え方に基づくのかという質問があり、これに対して運転者は随時ある地点において自分の疲れを5段階で評価しており、疲労に関する時系列データとデジタル式運行記録計のデータを含めたデータを蓄積し、その相関関係を見出す作業を行い、目的変数をその主観の疲れの5段階で設定していろいろな変数をどうやって上手く説明できるかという分析をした時にデジタル式運行記録計にかかわるデータの説明力が高いということで採用した旨を回答。
- 説明変数が客観的なデータで、5段階での運転者の疲れ度合い予測が運転者の主観的な評価ということであれば、さらに踏み込んで疲れてきたら車間距離が詰まるとか、ブレーキを踏む回数が増えたり減ったりとか、そのようなデータは入っているのかという質問があり、これに対して運転挙動については、サンプル数が少ないためモデルの中には変数として入れていないが、運転挙動を1秒間隔とか5秒間隔のデジタル式運行記録計のデータを取得して、それを目的変数に入れてどう変化するのか、これは今後のテーマの1つである旨を回答。

<主な意見>

- 個人個人の疲労というのは大きなファクターであり、これから高齢者社会を迎えると生体が弱ってきて疲れる方もいるため、そういったことも加味していくべき。

(3) デジタル式運行記録計の普及方策について(資料3及び4参照)

<主な意見>

- 導入ガイドについては、活用事例をもう少しわかりやすく書いた方がよい。
- 導入ガイドは、今すぐここで決めるというよりは、例えば2月中までに委員の皆様からご意見をいただき、より良いものとするべき。

以上